

平成27年度後期 授業改善アンケート 質問項目

【選択肢】

A そのとおりだと思う B どちらかといえば、そう思う C どちらかといえば、そう思わない D そう思わない

【設問】

		no.	設 問
学 生		1	シラバスで授業内容を確認しましたか
		2	教室では授業に積極的に取り組みましたか
		3	授業外で学習(レポートや課題を含む)をしましたか
		4	あなたはシラバスに示された「到達目標」を達成しましたか
授 業 内 容 教 え 方 等	内	5	授業はシラバスに記載された内容で行われましたか
	容	6	あなたは授業内容を理解できましたか
	教	7	教員の説明は明快でしたか
	え	8	教員の話は良く聞き取れましたか
	方 等	9	授業の進め方は、内容等を理解する上で効果的でしたか
大 学 か ら の 質 問	環 境 ・ 設 備 等	10	学習環境(人数、部屋の広さ等)は良好でしたか
		11	参考書等が図書館に揃っていますか

1.概評

今回の授業改善アンケートは、一般教養科目113科目（複数コマ開講の科目があり、正確には113コマ）を対象としている。今回の結果も、全体的な傾向に変化はなく、前回同様、質問項目全てに比較的高い評価を得ている。全項目の肯定評価A+Bの平均は92.4%で、前回は2.2ポイント上回った。しかし前回同様、本学全体平均と比べると、1.7ポイント低い。顕著な傾向としては、授業外の学習に関する項目3の肯定評価が89.1%で、他の項目より低調であることが挙げられる。この低い評価は、前回も触れたが、学生の専門科目と一般教養科目の取り組みの差を、残念ながら如実に示している。しかしこの数値にしても、前回よりも4.7ポイント高くなっており、希望的観測かも知れないが、学生の知的関心を呼び起こす科目が増えてきているのかも知れない。引き続き、学生の知的関心を呼び覚ます科目内容の充実に努めていきたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%）、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ <100	考察	
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.9 (1)	12.5 (14)	27.7 (31)	32.1 (36)	16.1 (18)	8.9 (10)	1.8 (2)	0.0 (0)	<p>【学生】 項目1は前回より2ポイント高くなって91.0%であるが、本学全体（92.6%）と比べると若干低く、ほぼ全科目が選択科目で、学生にもっとシラバスを見てもらいたい一般教養としては、残念な数値である。</p> <p>授業外での学習についての項目3、到達目標を問う項目4についても、それぞれ前回は4.7ポイント、4.0ポイント上回り、かなり改善はされてきてはいるものの、本学平均からすれば、相変わらず低い評価と言える。</p> <p>全項目の中で、項目4のみがA37.2%、B54.6%と、Bの数値がAのそれを上回っており、学生が思いの外厳しい自己評価をしていると考えられる。孰れにしても、科目履修をして具体的に何が理解かったかの、出来るようになったのかが分かる授業内容・授業方法の充実が望まれる。</p>	
	1.8 (2)	3.6 (4)	15.2 (17)	27.7 (31)	42.9 (48)	8.9 (10)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
2	0.0 (0)	0.0 (0)	16.1 (18)	23.2 (26)	22.3 (25)	13.4 (15)	8.9 (10)	6.3 (7)	7.1 (8)	2.7 (3)		
	4.5 (5)	5.4 (6)	7.1 (8)	10.7 (12)	22.3 (25)	42.9 (48)	5.4 (6)	1.8 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)		
3	0.0 (0)	0.9 (1)	5.4 (6)	20.5 (23)	17.9 (20)	21.4 (24)	20.5 (23)	7.1 (8)	5.4 (6)	0.9 (1)		
	6.3 (7)	5.4 (6)	14.3 (16)	27.7 (31)	31.3 (35)	13.4 (15)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.9 (1)	0.0 (0)		
4	0.9 (1)	8.9 (10)	30.4 (34)	22.3 (25)	16.1 (18)	11.6 (13)	6.3 (7)	2.7 (3)	0.9 (1)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	3.6 (4)	2.7 (3)	7.1 (8)	11.6 (13)	39.3 (44)	22.3 (25)	12.5 (14)	0.9 (1)	0.0 (0)		
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	8.9 (10)	21.4 (24)	31.3 (35)	17.0 (19)	11.6 (13)	8.9 (10)	0.9 (1)		<p>【授業[内容]】 項目5は肯定評価（A+B）が全項目の中で一番高く、殆どの科目において、授業内容とシラバスのそれにほとんど乖離がないことが分かる。授業の理解度を問う項目6は、92.6%でますます高い評価であるが、[学生]の項目4の数値と比較して、「理解」と目標の「達成」とがどのような関係にあるのか、分析する必要がある。</p>
	0.0 (0)	11.6 (13)	12.5 (14)	21.4 (24)	32.1 (36)	18.8 (21)	2.7 (3)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
6	0.0 (0)	1.8 (2)	10.7 (12)	17.9 (20)	24.1 (27)	18.8 (21)	8.9 (10)	7.1 (8)	8.9 (10)	1.8 (2)		
	0.9 (1)	11.6 (13)	5.4 (6)	18.8 (21)	28.6 (32)	31.3 (35)	2.7 (3)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
7	0.0 (0)	0.0 (0)	7.1 (8)	8.9 (10)	15.2 (17)	25.0 (28)	12.5 (14)	14.3 (16)	10.7 (12)	6.3 (7)		
	7.1 (8)	8.9 (10)	17.0 (19)	25.9 (29)	28.6 (32)	9.8 (11)	1.8 (2)	0.0 (0)	0.9 (1)	0.0 (0)		
8	0.0 (0)	0.0 (0)	4.5 (5)	7.1 (8)	13.4 (15)	23.2 (26)	19.6 (22)	12.5 (14)	13.4 (15)	6.3 (7)		
	8.0 (9)	10.7 (12)	17.9 (20)	31.3 (35)	24.1 (27)	5.4 (6)	1.8 (2)	0.0 (0)	0.9 (1)	0.0 (0)		
9	0.0 (0)	0.0 (0)	4.5 (5)	12.5 (14)	21.4 (24)	19.6 (22)	14.3 (16)	14.3 (16)	7.1 (8)	6.3 (7)		
	6.3 (7)	8.0 (9)	18.8 (21)	19.6 (22)	31.3 (35)	14.3 (16)	0.9 (1)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
10	0.0 (0)	0.0 (0)	2.7 (3)	10.7 (12)	21.4 (24)	19.6 (22)	16.1 (18)	20.5 (23)	5.4 (6)	3.6 (4)		
	6.3 (7)	9.8 (11)	19.6 (22)	35.7 (40)	25.0 (28)	2.7 (3)	0.0 (0)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
11	0.0 (0)	0.9 (1)	8.9 (10)	27.7 (31)	30.4 (34)	21.4 (24)	6.3 (7)	3.6 (4)	0.9 (1)	0.0 (0)		
	0.9 (1)	3.6 (4)	8.9 (10)	15.2 (17)	41.1 (46)	28.6 (32)	0.9 (1)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		

()は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

既に上で分析したように、一般教養への評価の平均は、ほぼどの項目を取っても本学全体の平均を下回っている。このような一般教養への評価は、一般教養科目の大学教育における位置づけ、延いては学生間における位置づけや、低学年から専門科目を履修する現在のカリキュラムの在り方から、ある程度説明されうるように思うが、無論、一般教養を担当する教員や総合教育センターがこの事実に甘んじていればいいということにはならない。「一般」という概念には、各学問領域を結ぶ、更には総合・統合するという意味が含意されていることに注目し、それに相応しい実践や改革が伴うならば、一般教養を取り巻く事情は現在とは随分変わる可能性がある。現時点では「道遠し」とは思うが、そうした方向性を念頭に教養教育に取り組んでいきたい。

4.今後の方針

上で確認したように、一般教養科目に対する評価が専門科目と比較し、概ね低い数値にとどまっているという事実を共有し、センターとしても、教員個人としても更なる詳細な分析を行い、議論を通して有効な方策を打ち出していく。

抽象的になるが、以下の2点を基本方針とする。

- ① 科目のバラエティー(無秩序)を活かしつつ分野・領域・科目の編成をバランスよくする。
- ② 今年度で2年目となるいくつもの分野・領域を結び・総合する科目として構想された「総合教養研究」の可能性を探っていく。

1.概評

全ての項目について概ね高評価の平均93.1である。今までの方針を維持しながら効果を高める方法を模索したい。外国語はレベルに合わせて到達目標が明確化されているので、良質な授業内容と設備環境が学生の学習意欲や結果に結びつく好循環が読み取れる。しかしながらシラバスで謳っている到達目標と実際の授業理解度については更なる分析も必要となろう。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%）、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ <100	考察	
1	1.0 (2)	2.1 (4)	12.5 (24)	19.8 (38)	17.2 (33)	19.3 (37)	14.6 (28)	5.2 (10)	3.6 (7)	4.7 (9)	<p>[学生] 平均92.2で肯定的な評価が多いことから学生は教員から指示された小テスト対策を含めて課題に真面目に取り組んでいる様子が伺える。教員はシラバスの内容を確認するとともに到達目標が達成できることを示し、出席状況を高めることで、学生が積極的に授業に取り組めるようにするのが肝要である。</p>	
	5.2 (10)	4.7 (9)	10.4 (20)	23.4 (45)	25.0 (48)	21.4 (41)	6.3 (12)	3.6 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)		
2	1.0 (2)	2.1 (4)	7.8 (15)	10.9 (21)	18.2 (35)	18.2 (35)	22.4 (43)	9.4 (18)	5.7 (11)	4.2 (8)		
	5.7 (11)	5.7 (11)	13.0 (25)	22.9 (44)	20.8 (40)	17.2 (33)	12.0 (23)	2.1 (4)	0.5 (1)	0.0 (0)		
3	2.1 (4)	1.6 (3)	5.2 (10)	7.8 (15)	18.2 (35)	16.1 (31)	22.4 (43)	15.1 (29)	7.8 (15)	3.6 (7)		
	4.2 (8)	10.4 (20)	22.4 (43)	22.4 (43)	19.8 (38)	12.5 (24)	6.3 (12)	1.0 (2)	0.5 (1)	0.5 (1)		
4	3.6 (7)	13.5 (26)	16.7 (32)	25.0 (48)	14.1 (27)	15.6 (30)	6.3 (12)	3.1 (6)	0.5 (1)	1.6 (3)		
	1.6 (3)	2.1 (4)	5.7 (11)	10.9 (21)	13.5 (26)	30.7 (59)	23.4 (45)	8.3 (16)	3.6 (7)	0.0 (0)		
5	2.1 (4)	1.6 (3)	3.6 (7)	7.8 (15)	20.8 (40)	18.2 (35)	16.7 (32)	15.6 (30)	7.8 (15)	5.7 (11)		<p>[授業[内容]] 平均94.1で肯定的な評価が多いことから授業内容はシラバスに記された内容で充実に行われ、教員の説明や進め方も適切と思われる。外国語の授業は語学のスキルを身に着ける内容であり、教員は段階的に進めて行くことになる。前回授業との関連性が高いため授業内容を理解するには課題などを通して学生の復習を徹底する方策が考えられる。</p>
	6.3 (12)	8.9 (17)	16.1 (31)	17.2 (33)	19.8 (38)	18.8 (36)	8.9 (17)	3.1 (6)	1.0 (2)	0.0 (0)		
6	2.1 (4)	4.7 (9)	8.3 (16)	10.9 (21)	22.9 (44)	16.1 (31)	15.6 (30)	7.8 (15)	7.3 (14)	4.2 (8)		
	3.6 (7)	8.3 (16)	14.1 (27)	16.7 (32)	22.4 (43)	24.0 (46)	5.2 (10)	5.7 (11)	0.0 (0)	0.0 (0)		
7	2.1 (4)	1.6 (3)	7.3 (14)	8.9 (17)	7.3 (14)	15.1 (29)	14.6 (28)	16.7 (32)	12.5 (24)	14.1 (27)		
	14.6 (28)	15.6 (30)	17.7 (34)	16.7 (32)	21.9 (42)	5.2 (10)	5.7 (11)	2.6 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)		
8	2.1 (4)	0.5 (1)	4.2 (8)	7.8 (15)	8.9 (17)	14.1 (27)	16.1 (31)	14.1 (27)	16.1 (31)	16.1 (31)		
	16.7 (32)	16.7 (32)	19.3 (37)	18.2 (35)	15.1 (29)	10.4 (20)	3.1 (6)	0.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
9	3.1 (6)	0.5 (1)	8.9 (17)	9.4 (18)	9.9 (19)	15.6 (30)	14.6 (28)	17.2 (33)	9.9 (19)	10.9 (21)		
	12.5 (24)	13.5 (26)	17.2 (33)	16.1 (31)	20.3 (39)	14.6 (28)	3.6 (7)	1.6 (3)	0.5 (1)	0.0 (0)		
10	1.0 (2)	0.0 (0)	1.0 (2)	3.1 (6)	8.9 (17)	22.4 (43)	14.1 (27)	21.9 (42)	14.6 (28)	13.0 (25)	<p>[環境・設備等] No.10の学習環境については非常に肯定的評価が高い。これは外国語科目の受講人数を調整しているがクラスによっては少人数クラスもあることも考えられる。No.11の評価は同年度前期と比べて改善されてきていると分析できる。語学によっては学生が使える参考図書や学習環境が充実してきているところもあるが、全体的に学習環境を整える工夫も求められる。学生の学習意欲を高める一因になるので、図書館に幅広い図書を揃えるのは重要な役割である。</p>	
	15.6 (30)	16.1 (31)	24.0 (46)	19.3 (37)	15.1 (29)	8.3 (16)	1.6 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
11	3.6 (7)	1.0 (2)	11.5 (22)	12.5 (24)	20.8 (40)	18.2 (35)	15.6 (30)	9.4 (18)	4.2 (8)	3.1 (6)		
	5.7 (11)	9.9 (19)	15.6 (30)	16.7 (32)	20.3 (39)	18.8 (36)	9.9 (19)	3.1 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)		

()は科目数

3. 学科の事情に応じた独自の分析

外国語習得は発音・発声・語彙・文法・会話といった語学の基礎から始めねばならないが、語学学習に伴う地道な努力は他の様々な学習とも関連している。シラバスに基づき、授業内容を充実させるとともに授業の中で到達目標を明確に示し、学生の目指すべき学習目標をわかりやすくする。語学の基礎力を高めるのに力を入れ、次のレベルに応用できる力を養う。

4. 今後の方針

評価方法が平成27年度前期から各科目のAB評価(肯定的な評価)のみを示すように変更されているが、その内容をよく確認し、改善すべき点を分析する必要がある。全体的には肯定的評価が否定的な評価を上回っているが、否定的な評価も参考にしなければならない。前年度同様シラバスや成績結果などを分析し、対策を検討する。

1.概評

全体としては、殆どの科目において、いずれも項目でも肯定的評価が多数となっており、学生の必要と要望に応える授業となっていると考える。ただ詳細に見れば課題のある部分があるため、一層の改善を図る。

その際、総合教育センター教職課程が開設する「教職に関する科目」と各学科専門科目である「教科に関する科目」との連携も視野に入れていく必要がある。

課程認定を受けている各学科と総合教育センター教職課程とが協働して教員養成を行うことが重要である。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%）、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ <100	考察	
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	8.0 (2)	0.0 (0)	8.0 (2)	28.0 (7)	28.0 (7)	12.0 (3)	16.0 (4)	<p>【学生】 「授業への積極的参加」(no2)、「授業外の学習」(no3)は多くの科目でA評価の割合が高くなっているが、「到達目標の達成」(no4)ではB評価が増えている。「到達目標」をより明確に示し、学生自身の学びの指針となるようにすることが必要である。</p>	
	12.0 (3)	28.0 (7)	28.0 (7)	20.0 (5)	8.0 (2)	0.0 (0)	4.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
2	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	8.0 (2)	16.0 (4)	16.0 (4)	16.0 (4)	28.0 (7)	16.0 (4)		
	16.0 (4)	24.0 (6)	28.0 (7)	8.0 (2)	16.0 (4)	8.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
3	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.0 (1)	8.0 (2)	8.0 (2)	32.0 (8)	24.0 (6)	8.0 (2)	16.0 (4)		
	12.0 (3)	20.0 (5)	28.0 (7)	28.0 (7)	0.0 (0)	4.0 (1)	8.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
4	0.0 (0)	0.0 (0)	4.0 (1)	4.0 (1)	24.0 (6)	20.0 (5)	28.0 (7)	12.0 (3)	8.0 (2)	0.0 (0)		
	4.0 (1)	8.0 (2)	4.0 (1)	36.0 (9)	24.0 (6)	20.0 (5)	4.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	8.0 (2)	0.0 (0)	12.0 (3)	20.0 (5)	28.0 (7)	12.0 (3)	20.0 (5)		<p>【授業[内容]】 殆どの科目でA評価が60%を超えており、シラバスの内容に沿って、学生の理解が進む形で行われている。模擬授業やグループワークにより、実践的に学ぶスタイルが定着している。ただわずかではあるが、授業内容により工夫が求められる科目もあり、学生のニーズに対応していくことについて、教職課程での共通認識を持つことが重要である。</p>
	16.0 (4)	16.0 (4)	36.0 (9)	8.0 (2)	20.0 (5)	4.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
6	0.0 (0)	0.0 (0)	4.0 (1)	8.0 (2)	0.0 (0)	8.0 (2)	16.0 (4)	24.0 (6)	16.0 (4)	24.0 (6)		
	20.0 (5)	20.0 (5)	16.0 (4)	32.0 (8)	4.0 (1)	4.0 (1)	4.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
7	0.0 (0)	4.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	8.0 (2)	4.0 (1)	12.0 (3)	16.0 (4)	20.0 (5)	36.0 (9)		
	32.0 (8)	32.0 (8)	12.0 (3)	8.0 (2)	12.0 (3)	4.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
8	0.0 (0)	4.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	8.0 (2)	0.0 (0)	4.0 (1)	20.0 (5)	4.0 (1)	60.0 (15)	<p>【授業[教え方等]】 「説明の明快さ」(no7)「聞き取りやすさ」(no8)「進め方」(no9)、いずれも殆どの科目で肯定的評価が多数を占めている。教職科目として、教え方自体も学生の学びの対象となるので、授業者の「ロールモデル」となっていると考えられる。他方で、板書・パワーポイント・配付資料についての要望も散見されるが、これらについては毎回の授業の中で学生の意見を聞き取って改善していくことが求められる。</p>	
	56.0 (14)	12.0 (3)	20.0 (5)	4.0 (1)	4.0 (1)	4.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
9	0.0 (0)	4.0 (1)	0.0 (0)	8.0 (2)	4.0 (1)	4.0 (1)	12.0 (3)	8.0 (2)	24.0 (6)	36.0 (9)		
	28.0 (7)	32.0 (8)	24.0 (6)	0.0 (0)	12.0 (3)	4.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
10	0.0 (0)	0.0 (0)	4.0 (1)	4.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	28.0 (7)	8.0 (2)	24.0 (6)	32.0 (8)		
	28.0 (7)	28.0 (7)	20.0 (5)	12.0 (3)	4.0 (1)	8.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
11	0.0 (0)	4.0 (1)	0.0 (0)	8.0 (2)	12.0 (3)	28.0 (7)	32.0 (8)	16.0 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	16.0 (4)	24.0 (6)	40.0 (10)	12.0 (3)	4.0 (1)	4.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		

()は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

教職課程科目を履修する学生の学習意欲や進路希望は多様である。教職を強く志望する学生がいる一方で、教員免許取得のみを考えている学生もおり、目的意識に差があるため、授業運営が難しい面がある。教職課程としては、卒業後すぐに教職に就く予定(意思)がなくとも、教員免許を取得する以上は教員としての力量を培うことが重要であることを強調している。

授業の内容・進め方については、非常勤講師が多く、教職課程として十分な意思疎通が図れない場面もある。

4.今後の方針

3で述べた基本姿勢(教職に就く意思の有無にかかわらず、教員としての力量をつける)は今後も堅持し、学生へも日頃から伝えていきたい。

授業については、非常勤講師を含め、教職課程の指導方針を共有し、内容と方法の改善を図る。

1.概評

前期同様、肯定的な評価が90%を超えており、全体的に良好な結果を維持していると言えよう。母数が異なるものの、前期より肯定的評価がアップした項目が殆どである。その一方で、A+B回答率が、大学全体の数値より上回る肯定評価は2項目しかない。また、必修科目等の大人数授業は概して否定的評価に傾きがちであり、高校までに学習してこない新分野の科目に対してもそうした傾向が見られる。逆に、少人数の演習や実習・スキル系科目は満足度が高い。教員側の具体的な授業改善もさることながら、学生個々にいかに学問に興味を持たせるかについても研究が必要である。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的 (A, B) な評価の割合ごとの科目数の割合(%), 学科の状況と課題 (前年度との比較等)。

(上段がA評価、下段がB評価)

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ <100	考察
1	0.0 (0)	0.9 (1)	0.9 (1)	4.3 (5)	14.5 (17)	18.8 (22)	29.9 (35)	19.7 (23)	8.5 (10)	2.6 (3)	<p>[学生] no.1およびno.3は、A評価をした学生が6割を超えており、学生が誠実に授業に取り組んでいる姿勢が見て取れる。その半面、no.2のD評価は5.5%と前期より増しており、後期になって学生の気がいささか緩む傾向も見取れる。 また、no.4については、前期同様A評価よりもB評価が高く、またC+D評価が7%となっていて、日文の学生の気質的なものを反映しているのではないかと考えられる。この点を追究すべく、次年度には「到達目標達成度」について、もう少し細かい調査ができるような、学科独自の質問項目を立てて臨みたい。</p>
	5.1 (6)	7.7 (9)	26.5 (31)	29.1 (34)	23.9 (28)	6.8 (8)	0.0 (0)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.9 (1)	0.9 (1)	3.4 (4)	15.4 (18)	23.1 (27)	14.5 (17)	14.5 (17)	12.8 (15)	13.7 (16)	0.9 (1)	
	2.6 (3)	10.3 (12)	17.9 (21)	18.8 (22)	18.8 (22)	28.2 (33)	1.7 (2)	0.9 (1)	0.9 (1)	0.0 (0)	
3	0.9 (1)	0.0 (0)	3.4 (4)	13.7 (16)	7.7 (9)	17.9 (21)	21.4 (25)	15.4 (18)	12.0 (14)	7.7 (9)	
	6.8 (8)	13.7 (16)	22.2 (26)	23.1 (27)	22.2 (26)	8.5 (10)	3.4 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	1.7 (2)	3.4 (4)	18.8 (22)	24.8 (29)	17.9 (21)	13.7 (16)	12.0 (14)	5.1 (6)	1.7 (2)	0.9 (1)	
	0.9 (1)	0.0 (0)	6.8 (8)	12.8 (15)	18.8 (22)	38.5 (45)	16.2 (19)	6.0 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.9 (1)	3.4 (4)	4.3 (5)	9.4 (11)	17.9 (21)	24.8 (29)	18.8 (22)	17.9 (21)	2.6 (3)	
	3.4 (4)	18.8 (22)	19.7 (23)	27.4 (32)	16.2 (19)	12.0 (14)	2.6 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.9 (1)	0.9 (1)	10.3 (12)	12.0 (14)	12.0 (14)	23.9 (28)	18.8 (22)	11.1 (13)	7.7 (9)	2.6 (3)	
	2.6 (3)	7.7 (9)	18.8 (22)	17.9 (21)	26.5 (31)	22.2 (26)	4.3 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	2.6 (3)	5.1 (6)	6.8 (8)	6.8 (8)	10.3 (12)	16.2 (19)	16.2 (19)	21.4 (25)	14.5 (17)	
	15.4 (18)	22.2 (26)	19.7 (23)	24.8 (29)	12.0 (14)	5.1 (6)	0.0 (0)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.9 (1)	0.9 (1)	0.9 (1)	7.7 (9)	5.1 (6)	13.7 (16)	9.4 (11)	18.8 (22)	23.1 (27)	19.7 (23)	
	17.1 (20)	28.2 (33)	19.7 (23)	20.5 (24)	9.4 (11)	4.3 (5)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	4.3 (5)	5.1 (6)	4.3 (5)	8.5 (10)	13.7 (16)	17.1 (20)	13.7 (16)	23.9 (28)	9.4 (11)	
	11.1 (13)	22.2 (26)	20.5 (24)	26.5 (31)	12.0 (14)	6.0 (7)	1.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.9 (1)	6.8 (8)	8.5 (10)	9.4 (11)	17.1 (20)	27.4 (32)	13.7 (16)	16.2 (19)	
	17.9 (21)	17.9 (21)	28.2 (33)	19.7 (23)	13.7 (16)	0.9 (1)	1.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.9 (1)	1.7 (2)	7.7 (9)	24.8 (29)	25.6 (30)	25.6 (30)	6.8 (8)	4.3 (5)	2.6 (3)	
	6.0 (7)	3.4 (4)	18.8 (22)	34.2 (40)	22.2 (26)	12.8 (15)	0.9 (1)	0.9 (1)	0.9 (1)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

1年次から4年次まで、少人数の演習科目を必修としているが、演習科目に対する学生の満足度はかなり高い。注目したい点は、no.4でA評価をしている学生が50%以上の科目が、演習科目だけであると73%を占める点である。「学生」の項目に記したとおり、日文の学生はこのno.4に関しては、全体としてはA評価よりB評価に向かう傾向があるが、こと演習に関してはこれが当てはまらず、学生は概ね「到達目標」に達し得たと判断している。

4.今後の方針

まずは教員各自がそれぞれの結果をよくよく吟味し、改善点を見出すことが第一である。教授法を磨くとともに、学生の傾向・課題点等の情報共有に努めつつ、否定的評価の主たる原因が何かを考察し、いかにそれを改善するかについて、常勤教員は科会等で密に報告を行い、非常勤の先生方にはアンケートや機会ごとの聴取を怠らないよう努める。

1.概評

今回の回答集系では、A+Bの回答比率がすべての質問において全体集計結果を上回っていた。また、Aの回答比率が全体集計結果を大幅に上回っているものが多い。その点を考慮すると、今学科の評価は満足できるものと考えている。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的 (A, B) な評価の割合ごとの科目数の割合(%), 学科の状況と課題 (前年度との比較等)。

(上段がA評価、下段がB評価)

no	0 ≤ <10	10 ≤ <20	20 ≤ <30	30 ≤ <40	40 ≤ <50	50 ≤ <60	60 ≤ <70	70 ≤ <80	80 ≤ <90	90 ≤ <100	考察
1	0.0 (0)	1.5 (2)	2.2 (3)	5.8 (8)	9.5 (13)	13.1 (18)	21.2 (29)	13.1 (18)	19.7 (27)	13.9 (19)	<p>[学生] 問2でAの回答が全体平均を14.5%、問3では16.2%、問4では18.6%上回っていた。学生の教室内外での取り組みが良好であり、到達目標をしっかりと達成した証であるといえる。一方、Dの回答も問1で全体平均を0.7%、問2で0.2%上回っていることが気になる点である。</p> <p>[授業[内容]] 2項目とも全体的に良好である。シラバスに沿った内容の授業が学生に十分理解できた証であると言える。問5のDの回答が全体平均を0.4%上回っていることが気になる点である。</p> <p>[授業[教え方等]] 英語科目を教えているという特性を考慮しても、全項目で高い評価を得ていることは満足できることである。しかしながら、内容と同様に、問8、問9のDの回答が全体平均を0.4%と0.5%高い点が気になることである。</p> <p>[環境・設備等] 2項目とも全体平均を上回っているものの、設問11(参考書等が図書館に揃っているか)は評価が最も低かった。Graded Readerなど既存資料を紹介するなどの取り組みを行おう。一方、年2回ある学生向けの図書を図書館に推薦して関連分野の蔵書を増やす機会を教員がもっと活用するように周知していきたい。</p>
	17.5 (24)	23.4 (32)	21.9 (30)	19.7 (27)	10.2 (14)	5.8 (8)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.7 (1)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.7 (1)	1.5 (2)	1.5 (2)	5.8 (8)	8.8 (12)	26.3 (36)	21.9 (30)	21.2 (29)	12.4 (17)	
	13.1 (18)	19.7 (27)	26.3 (36)	25.5 (35)	10.2 (14)	4.4 (6)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.7 (1)	0.7 (1)	0.7 (1)	3.6 (5)	8.0 (11)	14.6 (20)	20.4 (28)	32.8 (45)	18.2 (25)	
	18.2 (25)	35.8 (49)	22.6 (31)	16.1 (22)	2.9 (4)	3.6 (5)	0.0 (0)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.7 (1)	3.6 (5)	0.7 (1)	10.2 (14)	9.5 (13)	22.6 (31)	10.2 (14)	18.2 (25)	16.1 (22)	8.0 (11)	
	10.2 (14)	15.3 (21)	18.2 (25)	19.0 (26)	18.2 (25)	9.5 (13)	7.3 (10)	0.7 (1)	1.5 (2)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.7 (1)	1.5 (2)	2.9 (4)	1.5 (2)	13.9 (19)	16.8 (23)	16.8 (23)	22.6 (31)	23.4 (32)	
	21.9 (30)	26.3 (36)	17.5 (24)	20.4 (28)	8.0 (11)	4.4 (6)	1.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	2.2 (3)	2.2 (3)	2.9 (4)	5.1 (7)	12.4 (17)	13.1 (18)	19.0 (26)	20.4 (28)	22.6 (31)	
	21.2 (29)	21.2 (29)	25.5 (35)	17.5 (24)	8.0 (11)	4.4 (6)	0.7 (1)	1.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	1.5 (2)	0.7 (1)	3.6 (5)	3.6 (5)	0.7 (1)	7.3 (10)	12.4 (17)	17.5 (24)	21.2 (29)	31.4 (43)	
	31.4 (43)	25.5 (35)	19.7 (27)	14.6 (20)	5.1 (7)	1.5 (2)	2.2 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.7 (1)	0.7 (1)	1.5 (2)	3.6 (5)	2.9 (4)	6.6 (9)	9.5 (13)	15.3 (21)	25.5 (35)	33.6 (46)	
	34.3 (47)	26.3 (36)	19.7 (27)	10.2 (14)	5.8 (8)	2.2 (3)	1.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	1.5 (2)	0.7 (1)	3.6 (5)	3.6 (5)	3.6 (5)	8.0 (11)	13.1 (18)	18.2 (25)	17.5 (24)	29.9 (41)	
	29.9 (41)	24.8 (34)	19.7 (27)	13.9 (19)	8.0 (11)	2.2 (3)	0.7 (1)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.6 (5)	0.7 (1)	7.3 (10)	13.9 (19)	21.9 (30)	24.1 (33)	28.5 (39)	
	32.8 (45)	29.2 (40)	20.4 (28)	10.9 (15)	4.4 (6)	1.5 (2)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	1.5 (2)	0.7 (1)	6.6 (9)	8.0 (11)	12.4 (17)	28.5 (39)	14.6 (20)	17.5 (24)	10.2 (14)	
	17.5 (24)	25.5 (35)	24.1 (33)	14.6 (20)	10.2 (14)	7.3 (10)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

[授業[教え方等]]の項目にも書いたが、英語科目を教えている学科でありながらも、教え方について高い評価であった点は評価している。しかし一方で、D評価が平均より高い質問が増えた点は留意しなければならない。

4.今後の方針

授業の質を高めるために、年度末に非常勤教師連絡会を開催し、授業の教え方について情報共有を図るFD活動を行った。今後も授業参観及び連絡会を開催することで、組織的に教育の質を高めていきたい。

1.概評

後期開設科目のうち、82科目でアンケートを実施した。肯定的評価（A・B）の割合が全体の割合より高かった項目は、4項目（問1・2・4・9）で、同じものが1項目（問6）、低い数値となったのが6項目（問3・5・7・8・10・11）であった。低い評価は、昨年度は3項目であったが今期は増える結果となった。この結果を真摯に受け止め、改善を促して行きたい。

問3. 授業外の課題や学習、問5. シラバスに沿った授業運営の項目は昨年後期に改善が見られた項目であった。今期再び評価が低くなった点については、科目等を詳細に検討して対応を考えて行く。問10・11の環境・施設、参考図書の実践は過去においても評価が低く、学科の課題となっている。学生の満足度を上げるためにも引き続き改善に向けて努力して行きたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%）、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ <100	考察	
1	0.0 (0)	0.0 (0)	2.4 (2)	5.9 (5)	11.8 (10)	31.8 (27)	23.5 (20)	12.9 (11)	5.9 (5)	5.9 (5)	<p>[学生] シラバスで内容を確認する、積極的な取り組み、到達目標の達成については全体平均よりも高い評価を得た。ただし、必修科目についてはシラバスを十分に確認していない傾向がある。今後も高い評価を維持できるよう指導を徹底して行きたい。一方、授業外での課題の取組は全体平均よりも低い評価となった。評価の高い授業とそうではない授業があるため、評価の低い授業については、レポート、課題の工夫をしてもらうよう授業担当者に学科から申し入れ、学生の自主的な学習を促す努力を続けて行きたい。</p>	
	4.7 (4)	7.1 (6)	18.8 (16)	25.9 (22)	27.1 (23)	14.1 (12)	0.0 (0)	1.2 (1)	1.2 (1)	0.0 (0)		
2	0.0 (0)	0.0 (0)	4.7 (4)	11.8 (10)	22.4 (19)	28.2 (24)	14.1 (12)	7.1 (6)	4.7 (4)	7.1 (6)		
	7.1 (6)	2.4 (2)	11.8 (10)	16.5 (14)	24.7 (21)	29.4 (25)	7.1 (6)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
3	0.0 (0)	2.4 (2)	5.9 (5)	14.1 (12)	10.6 (9)	20.0 (17)	15.3 (13)	15.3 (13)	9.4 (8)	7.1 (6)		
	4.7 (4)	11.8 (10)	20.0 (17)	18.8 (16)	17.6 (15)	22.4 (19)	4.7 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
4	0.0 (0)	5.9 (5)	15.3 (13)	32.9 (28)	11.8 (10)	18.8 (16)	4.7 (4)	4.7 (4)	2.4 (2)	3.5 (3)		
	2.4 (2)	1.2 (1)	5.9 (5)	9.4 (8)	17.6 (15)	34.1 (29)	22.4 (19)	4.7 (4)	2.4 (2)	0.0 (0)		
5	0.0 (0)	0.0 (0)	3.5 (3)	11.8 (10)	15.3 (13)	17.6 (15)	20.0 (17)	18.8 (16)	5.9 (5)	7.1 (6)		<p>[授業[内容]] シラバスに沿った授業運営については、昨年度は全体平均より高い評価を得ていたが、今期は低い評価となった。シラバスと異なる授業運営があったのは一部であると思われる。学科から各教員にシラバスに沿った授業運営を呼びかけると共に、内容に変化が生じた場合の対応についても周知するよう努めて行きたい。授業内容の理解については、従来高い評価を得ていた項目であるが、全体平均と同じ評価に留まった。シラバス通りの運営が行われていない科目との相関性が一部に見られることから、学科から改善の申し入れを行う。</p>
	4.7 (4)	9.4 (8)	20.0 (17)	20.0 (17)	24.7 (21)	16.5 (14)	4.7 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
6	0.0 (0)	0.0 (0)	10.6 (9)	12.9 (11)	17.6 (15)	16.5 (14)	15.3 (13)	12.9 (11)	7.1 (6)	7.1 (6)		
	7.1 (6)	4.7 (4)	21.2 (18)	15.3 (13)	23.5 (20)	22.4 (19)	5.9 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
7	0.0 (0)	1.2 (1)	7.1 (6)	8.2 (7)	4.7 (4)	20.0 (17)	14.1 (12)	18.8 (16)	15.3 (13)	10.6 (9)		
	11.8 (10)	16.5 (14)	21.2 (18)	17.6 (15)	21.2 (18)	5.9 (5)	4.7 (4)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
8	0.0 (0)	3.5 (3)	5.9 (5)	3.5 (3)	5.9 (5)	14.1 (12)	15.3 (13)	17.6 (15)	22.4 (19)	11.8 (10)		
	9.4 (8)	23.5 (20)	29.4 (25)	15.3 (13)	10.6 (9)	9.4 (8)	1.2 (1)	0.0 (0)	1.2 (1)	0.0 (0)		
9	0.0 (0)	1.2 (1)	7.1 (6)	9.4 (8)	11.8 (10)	17.6 (15)	10.6 (9)	22.4 (19)	10.6 (9)	9.4 (8)		
	8.2 (7)	11.8 (10)	28.2 (24)	15.3 (13)	16.5 (14)	16.5 (14)	2.4 (2)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
10	0.0 (0)	0.0 (0)	2.4 (2)	11.8 (10)	5.9 (5)	17.6 (15)	21.2 (18)	17.6 (15)	12.9 (11)	10.6 (9)	<p>[環境・設備等] 環境・設備および参考図書の充実については、低い評価となった。学科必修科目、資格科目については受講生が多いため教室の確保が難しい。今期についても授業形態・受講者数に応じて配慮を行ってきたが、今後は時間割の検討も含めてさらに調整をして行きたい。参考図書の充実も従来のからの課題である。資料の探し方を指導すると共に、教員・学生から図書館に要望をだすなど、学科を上げて取り組んで行きたい。</p>	
	10.6 (9)	16.5 (14)	23.5 (20)	29.4 (25)	16.5 (14)	3.5 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
11	1.2 (1)	3.5 (3)	4.7 (4)	17.6 (15)	29.4 (25)	18.8 (16)	14.1 (12)	8.2 (7)	1.2 (1)	1.2 (1)		
	4.7 (4)	3.5 (3)	16.5 (14)	24.7 (21)	24.7 (21)	21.2 (18)	4.7 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		

()は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

学科の課題である授業環境・設備、参考図書の充実の2点について分析する。

歴史文化学科では、各学年に学科必修科目を開設しているため、100名を超える授業が複数存在する。また、教職・学芸員課程の授業においても同様のことが言える。さらに、講義と実習の両者を行う授業については利用できる教室が限定される。これらのことから、教室の確保が難しい現状である。参考図書の充実については、卒業論文製作、レポート製作に専門性の高い文献を必要とする。特に、歴史文化に関するさまざまな分野・地域が研究対象となっているため、すべての専門領域にわたって図書を充実することは難しいと言わざるを得ない。図書館ネットワークの利用、個々の検索能力を上げるなどの指導を行ってゆくことが必要と言える。

4.今後の方針

本学科の学生は、授業に真面目に取り組むものの授業外での学習に弱い点が課題となっていた。そこでこの課題を改善すべく学科として取り組んできた(下記①～④)。今期、前年度に引き続き全体平均より高い評価を得ることが出来たことから、学科の取組が成果を上げていると考えられる。従って、今後もこの取組を継続し、さらなる学生の自主性を引き出すよう取り組んでいきたい。

【学科の取組】

①1年生の必修授業(「歴史文化基礎」)では、各自がそれぞれテーマを設定し、各自で調査したことを整理して授業で報告するスタイルを徹底してきた。今後もこのスタイルを維持し、自主的・主体的な学習と学ぶ姿勢を養う。

②2年生以上では、必修授業での課題の徹底、ゼミごとの夏期研修旅行・海外研修プログラムの参加、昭和女子大学文化史学会への参加などから、視野を広げ自主的・主体的な学習姿勢を養う。

③シラバスに沿った授業展開を各教員に働きかける。シラバスの内容に変更が生じた場合の対応について周知する。

④各教員に対し、FD講演会・サロンへの参加を呼びかける。

1.概評

2015年度後期に開講した104科目の授業評価をした。累計2498名から回答をえた。問11の89.9%をのぞき、すべての設問で肯定率が90%をこえた。前期から改善がみられる。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的 (A, B) な評価の割合ごとの科目数の割合(%), 学科の状況と課題 (前年度との比較等)。

(上段がA評価、下段がB評価)

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ <100	考察	
1	1.9 (2)	4.7 (5)	14.0 (15)	19.6 (21)	11.2 (12)	21.5 (23)	13.1 (14)	4.7 (5)	9.3 (10)	0.0 (0)	<p>[学生] 設問01は91.2%。約10%の学生がシラバスを確認していないことになり問題である。100%にちかづけるべく、履修指導を徹底したい。設問02 (97.0%), 同03 (96.9%), 同04 (94.1%) とも肯定率がたかく、学生は熱心に学習しているようである。</p>	
	2.8 (3)	7.5 (8)	8.4 (9)	18.7 (20)	17.8 (19)	27.1 (29)	13.1 (14)	3.7 (4)	0.9 (1)	0.0 (0)		
2	0.0 (0)	1.9 (2)	6.5 (7)	18.7 (20)	11.2 (12)	21.5 (23)	16.8 (18)	15.0 (16)	7.5 (8)	0.9 (1)		
	1.9 (2)	7.5 (8)	15.0 (16)	21.5 (23)	15.9 (17)	19.6 (21)	15.9 (17)	2.8 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)		
3	0.9 (1)	0.9 (1)	6.5 (7)	8.4 (9)	12.1 (13)	18.7 (20)	18.7 (20)	22.4 (24)	8.4 (9)	2.8 (3)		
	2.8 (3)	12.1 (13)	20.6 (22)	21.5 (23)	15.9 (17)	15.9 (17)	5.6 (6)	4.7 (5)	0.9 (1)	0.0 (0)		
4	4.7 (5)	9.3 (10)	19.6 (21)	18.7 (20)	14.0 (15)	15.9 (17)	10.3 (11)	7.5 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	0.0 (0)	8.4 (9)	14.0 (15)	10.3 (11)	26.2 (28)	25.2 (27)	11.2 (12)	3.7 (4)	0.9 (1)		
5	1.9 (2)	0.9 (1)	4.7 (5)	14.0 (15)	15.9 (17)	17.8 (19)	10.3 (11)	21.5 (23)	10.3 (11)	2.8 (3)		<p>[授業[内容]] 講義はシラバスにそっておこなわれている (設問05 95.9%)。学生の理解度 (95.7%) については、実情をたたく反映しているのか、いささか疑問に感じる。</p>
	3.7 (4)	12.1 (13)	21.5 (23)	13.1 (14)	18.7 (20)	19.6 (21)	7.5 (8)	3.7 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)		
6	0.9 (1)	3.7 (4)	7.5 (8)	15.9 (17)	7.5 (8)	21.5 (23)	16.8 (18)	16.8 (18)	7.5 (8)	1.9 (2)		
	1.9 (2)	9.3 (10)	18.7 (20)	19.6 (21)	15.9 (17)	18.7 (20)	13.1 (14)	1.9 (2)	0.9 (1)	0.0 (0)		
7	0.9 (1)	0.9 (1)	3.7 (4)	7.5 (8)	6.5 (7)	23.4 (25)	12.1 (13)	17.8 (19)	19.6 (21)	7.5 (8)		
	8.4 (9)	21.5 (23)	18.7 (20)	15.0 (16)	20.6 (22)	9.3 (10)	4.7 (5)	1.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)		
8	0.0 (0)	1.9 (2)	4.7 (5)	4.7 (5)	12.1 (13)	14.0 (15)	11.2 (12)	16.8 (18)	22.4 (24)	12.1 (13)	<p>[授業[教え方等]] 講義のすすめかたも問題なし (設問07 96.0%, 同08 96.6%, 同09 95.1%)。</p>	
	13.1 (14)	21.5 (23)	20.6 (22)	13.1 (14)	15.9 (17)	11.2 (12)	2.8 (3)	1.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)		
9	0.9 (1)	1.9 (2)	6.5 (7)	5.6 (6)	11.2 (12)	20.6 (22)	14.0 (15)	15.0 (16)	13.1 (14)	11.2 (12)		
	12.1 (13)	12.1 (13)	20.6 (22)	15.0 (16)	19.6 (21)	15.9 (17)	1.9 (2)	2.8 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)		
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	6.5 (7)	6.5 (7)	21.5 (23)	14.0 (15)	21.5 (23)	17.8 (19)	12.1 (13)		
	13.1 (14)	20.6 (22)	22.4 (24)	16.8 (18)	19.6 (21)	6.5 (7)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
11	0.0 (0)	5.6 (6)	4.7 (5)	20.6 (22)	15.9 (17)	23.4 (25)	15.9 (17)	8.4 (9)	5.6 (6)	0.0 (0)		
	1.9 (2)	11.2 (12)	18.7 (20)	19.6 (21)	18.7 (20)	19.6 (21)	7.5 (8)	2.8 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)		

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

2015年度から、週2コマの自習時間を時間ワリにくみこむよう指導したところ、自学自習を習慣とする学生がふえている。今後とも励行したい。

4.今後の方針

大学内での自習時間をひきつづき学生たちに浸透させる。

1.概評

肯定的評価の値は、大学全体平均よりも若干低めであるものの、総じて8~9割を維持しており、学生満足において一定の評価を得ている。また肯定率は、前期結果と比較して「学習環境(教室の広さ等)」に関わる設問を除く全ての項目で改善した。
 学科カリキュラムの構造は、2年次前期まで必修科目中心であり、2年次後期から、選択科目中心の履修パターンに転換する。学科では、「ビジネス研究」や「プロジェクト演習」などアクティブラーニング型の科目が多く開講されており、学修参加意欲を高めることにつながっている。アクティブラーニングの推進については、教員間の情報共有とPBL教授法の開発、ICTの活用を継続する。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的(A, B)な評価の割合ごとの科目数の割合、学科の状況と課題(前年度との比較等)。

(上段がA評価、下段がB評価)

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ <100	考察	
1	0.0 (0)	5.9 (5)	7.1 (6)	20.0 (17)	16.5 (14)	17.6 (15)	22.4 (19)	7.1 (6)	3.5 (3)	0.0 (0)	<p>[学生] ①シラバスの閲読、②講義への取組み姿勢、③授業外学習、④講義到達目標の達成の何れにおいても8~9割程度が肯定的評価(A+B評価)であり、概ね良好といえる。総じて前期結果よりも改善した。一方、A評価の割合に注目すると、①と④について、大学の全体平均よりもやや低い傾向は続いており、講義シラバスを熟読して講義に臨む姿勢の確立に更なる工夫が必要である。改善対象としては、英語を含めた1年次開講の専門科目(必修)である。シラバスは、主に学生の科目選択時に閲読されるが、必修科目は学科登録となっている。既に期初の履修ガイダンスにおいては、シラバス閲読の意義と必要性を強調して説明しているが、初回講義時においても、担当教員から閲読の意義を説明して学生の意識変革に努めたい。</p>	
	1.2 (1)	8.2 (7)	15.3 (13)	30.6 (26)	18.8 (16)	20.0 (17)	4.7 (4)	0.0 (0)	1.2 (1)	0.0 (0)		
2	1.2 (1)	5.9 (5)	4.7 (4)	12.9 (11)	11.8 (10)	31.8 (27)	15.3 (13)	7.1 (6)	7.1 (6)	2.4 (2)		
	2.4 (2)	7.1 (6)	14.1 (12)	12.9 (11)	34.1 (29)	15.3 (13)	11.8 (10)	2.4 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)		
3	0.0 (0)	4.7 (4)	2.4 (2)	11.8 (10)	22.4 (19)	17.6 (15)	12.9 (11)	18.8 (16)	7.1 (6)	2.4 (2)		
	3.5 (3)	12.9 (11)	17.6 (15)	22.4 (19)	20.0 (17)	15.3 (13)	7.1 (6)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
4	1.2 (1)	11.8 (10)	16.5 (14)	22.4 (19)	21.2 (18)	15.3 (13)	7.1 (6)	2.4 (2)	2.4 (2)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	2.4 (2)	4.7 (4)	14.1 (12)	18.8 (16)	31.8 (27)	18.8 (16)	5.9 (5)	2.4 (2)	1.2 (1)		
5	0.0 (0)	2.4 (2)	7.1 (6)	9.4 (8)	16.5 (14)	24.7 (21)	20.0 (17)	11.8 (10)	8.2 (7)	0.0 (0)		<p>[授業[内容]] ⑤シラバス記載内容の実質化、⑥講義内容の理解については、学科全体として9割の肯定的評価(A+B評価)を得ており良好といえる。肯定的評価の構成においては、理論的学習が必要とされる科目においてB評価の割合が高いが、学科の学びの基盤となる重要な講義群であり、教員間で、より分かりやすい説明や、知識が定着するための工夫(学生の自主的学習を促す仕組み、反転授業、繰り返しの演習課題など)について情報共有していきたい。学科では、経営・経済系専門科目を担当する教員間、あるいは英語などスキル系科目担当の教員間において、既に分科会を立ち上げ、講義方針の共有や手法の紹介を行う仕組みを設けており、そこの議論を継続し、学生の理解度やモチベーション向上に努めたい。</p>
	0.0 (0)	4.7 (4)	14.1 (12)	30.6 (26)	18.8 (16)	22.4 (19)	7.1 (6)	2.4 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)		
6	0.0 (0)	3.5 (3)	9.4 (8)	12.9 (11)	15.3 (13)	17.6 (15)	20.0 (17)	11.8 (10)	8.2 (7)	1.2 (1)		
	2.4 (2)	8.2 (7)	14.1 (12)	28.2 (24)	15.3 (13)	18.8 (16)	11.8 (10)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
7	0.0 (0)	3.5 (3)	8.2 (7)	10.6 (9)	14.1 (12)	11.8 (10)	17.6 (15)	17.6 (15)	11.8 (10)	4.7 (4)		
	4.7 (4)	14.1 (12)	17.6 (15)	21.2 (18)	16.5 (14)	18.8 (16)	7.1 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
8	0.0 (0)	1.2 (1)	4.7 (4)	10.6 (9)	18.8 (16)	10.6 (9)	14.1 (12)	18.8 (16)	15.3 (13)	5.9 (5)		
	4.7 (4)	17.6 (15)	21.2 (18)	11.8 (10)	23.5 (20)	15.3 (13)	4.7 (4)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
9	0.0 (0)	3.5 (3)	8.2 (7)	14.1 (12)	15.3 (13)	12.9 (11)	18.8 (16)	11.8 (10)	10.6 (9)	4.7 (4)		
	3.5 (3)	11.8 (10)	22.4 (19)	18.8 (16)	20.0 (17)	12.9 (11)	9.4 (8)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
10	0.0 (0)	0.0 (0)	7.1 (6)	7.1 (6)	16.5 (14)	20.0 (17)	14.1 (12)	22.4 (19)	11.8 (10)	1.2 (1)		
	3.5 (3)	11.8 (10)	25.9 (22)	29.4 (25)	15.3 (13)	10.6 (9)	3.5 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
11	1.2 (1)	3.5 (3)	16.5 (14)	16.5 (14)	29.4 (25)	17.6 (15)	12.9 (11)	2.4 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)		
	1.2 (1)	4.7 (4)	12.9 (11)	29.4 (25)	28.2 (24)	12.9 (11)	8.2 (7)	2.4 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)		

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

新アンケートが施行後、1年が経過していないため、前年同期での比較はできないが、学科の特色として、ケーススタディやプロジェクト学習を通じた学びに資するよう、学科内で独自設問の開発を行いたい。

4.今後の方針

- 1) 経済・経営系科目、スキル系科目(英語やコンピュータ他)、初年次教育科目、プロジェクト科目(ゼミナール)のそれぞれの領域における担当教員間の対話を継続し、目標と対応事項を定め、定期的な分科会(学科内FD)を通じて、効果的な教授法の開発と共有を図る。またプログラム管理を進めるため、各領域のコーディネータの役割を強化する。
- 2) 活動内容が多岐にわたるプロジェクト(ゼミナール)において、教員間だけでなく学生間においても、各ゼミ活動の情報共有や成果報告を行うような、教員と学生が一体となったプログラムづくりを推進する(ICTを活用した外部への発信に結びつける)。
- 3) 2年次前期のポストプログラム(グローバルビジネスプログラム)について、ポスト教員との共時的なコミュニケーションを深め、教授法やプログラムメニューの発展を図る。
- 4) 講義においてはアクティブラーニングを継続して推進し、授業外学習の習慣化を通じてアウトプット(成果報告会やチームペーパー、報告書の作成など)の質の向上を図る。プロジェクト活動では、PBLの評価方法、成果の表現方法、ピア・ラーニングに取り組む学科カルチャーの醸成方法を継続的に検討する。
- 5) 学生の自主性を涵養できるよう、課題内容、提出物管理、フィードバックの工夫に努める。卒業に向けた履修計画の立案過程を通じて、学生の自律性を高める。
- 6) 学科の完成年度に向けて、カリキュラム体系の改善・企画を進める。
- 7) FD講演会、FDサロンへの参加、また学外での研修会などを通じた新たな教授法の習得に努める。

1.概評

いずれの設問においても、肯定的評価（A+B）の割合が90%以上と高い値を示し、学生の学習態度、教員の授業運営双方に良好であることが確認できた。特に学習態度に関する学生の自己評価の項目は前期よりも肯定的評価の割合が上がっており、学生が授業の内外で積極的に学んでいる様子がうかがえた。引き続き、学生の主体的な学びを促し、授業運営の改善に取り組んでいきたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%）、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ <100	考察	
1	0.0 (0)	0.0 (0)	8.5 (4)	10.6 (5)	29.8 (14)	38.3 (18)	6.4 (3)	4.3 (2)	2.1 (1)	0.0 (0)	<p>[学生] いずれの項目も肯定的評価の割合が90%以上で、学生の自己評価は高かった。前期と比べると特に「授業外の学習」(no.3)、「到達目標達成」(no.4)の評価が上がっており学生の学習意欲が高いことがうかがえた。</p>	
	2.1 (1)	0.0 (0)	12.8 (6)	12.8 (6)	44.7 (21)	23.4 (11)	4.3 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
2	2.1 (1)	0.0 (0)	12.8 (6)	19.1 (9)	34.0 (16)	14.9 (7)	12.8 (6)	4.3 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	0.0 (0)	6.4 (3)	10.6 (5)	25.5 (12)	40.4 (19)	12.8 (6)	4.3 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)		
3	0.0 (0)	4.3 (2)	8.5 (4)	19.1 (9)	19.1 (9)	14.9 (7)	21.3 (10)	8.5 (4)	4.3 (2)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	6.4 (3)	10.6 (5)	21.3 (10)	21.3 (10)	31.9 (15)	8.5 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
4	2.1 (1)	14.9 (7)	14.9 (7)	46.8 (22)	12.8 (6)	6.4 (3)	2.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.3 (2)	6.4 (3)	46.8 (22)	27.7 (13)	14.9 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)		
5	0.0 (0)	0.0 (0)	4.3 (2)	17.0 (8)	25.5 (12)	29.8 (14)	10.6 (5)	10.6 (5)	2.1 (1)	0.0 (0)		<p>[授業[内容]] 2設問とも肯定的評価が90%以上で、各教員がシラバスに沿った授業を展開し、学生も授業内容をよく理解していたことがうかがえた。</p>
	0.0 (0)	2.1 (1)	12.8 (6)	12.8 (6)	42.6 (20)	21.3 (10)	8.5 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
6	0.0 (0)	8.5 (4)	10.6 (5)	25.5 (12)	27.7 (13)	19.1 (9)	4.3 (2)	2.1 (1)	2.1 (1)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	2.1 (1)	2.1 (1)	17.0 (8)	34.0 (16)	25.5 (12)	12.8 (6)	6.4 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)		
7	2.1 (1)	0.0 (0)	14.9 (7)	10.6 (5)	17.0 (8)	31.9 (15)	12.8 (6)	4.3 (2)	4.3 (2)	2.1 (1)		
	2.1 (1)	4.3 (2)	10.6 (5)	19.1 (9)	44.7 (21)	8.5 (4)	10.6 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
8	0.0 (0)	2.1 (1)	12.8 (6)	6.4 (3)	14.9 (7)	19.1 (9)	25.5 (12)	10.6 (5)	6.4 (3)	2.1 (1)		
	2.1 (1)	8.5 (4)	14.9 (7)	29.8 (14)	21.3 (10)	17.0 (8)	6.4 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
9	2.1 (1)	6.4 (3)	6.4 (3)	12.8 (6)	23.4 (11)	25.5 (12)	14.9 (7)	4.3 (2)	2.1 (1)	2.1 (1)		
	2.1 (1)	4.3 (2)	8.5 (4)	21.3 (10)	34.0 (16)	21.3 (10)	6.4 (3)	2.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
10	0.0 (0)	0.0 (0)	4.3 (2)	17.0 (8)	12.8 (6)	31.9 (15)	21.3 (10)	6.4 (3)	4.3 (2)	2.1 (1)	<p>[環境・設備等] 2設問とも肯定的評価が90%であり環境・設備についても概ね良好な評価であったといえる。</p>	
	4.3 (2)	2.1 (1)	14.9 (7)	42.6 (20)	31.9 (15)	0.0 (0)	4.3 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
11	0.0 (0)	6.4 (3)	8.5 (4)	29.8 (14)	31.9 (15)	17.0 (8)	4.3 (2)	2.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	2.1 (1)	4.3 (2)	4.3 (2)	44.7 (21)	31.9 (15)	8.5 (4)	4.3 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)		

()は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

前期の分析と同様に、学科の専門教育科目を講義系科目群(23科目)と実験実習系科目群(7科目)に分け、各設問ごとの肯定的評価の割合を比較した。両科目群とも肯定的評価の割合が高く良好な結果であり、各授業の到達目標が達成できたと評価できる。特に講義系科目群は、すべての項目で肯定的評価が90%以上の高評価であり、学生は心理学の基礎知識を身に付けることができたと考えられる。実験実習系科目群については、「到達目標達成」(no.4)、「授業理解」(no.6)、「図書館充実」(no.11)の肯定的評価が80%台で相対的に低かったが、学生は授業内外で積極的に学習に取り組んでいると自己評価しており、心理学の知識を研究や実践で深めていくことの難しさを実感しながらも実習に意欲的に取り組んでいることが推察される。

4.今後の方針

・上記の分析より、講義系科目群においては、学生の能動的な学習を一層促していきたい。実験実習系科目群においては、各科目の到達目標をより具体的に学生に明示し、アクティブラーニングを通じた学びが深まるように心がけていきたい。

・図書館の蔵書に関して、今後も各教員が担当授業科目における参考図書の購入依頼を積極的に行うとともに、学生への指導、広報を行い、学生が図書館をより活用するように促していきたい。

1.概評

本学科では、回答者数2352名のアンケート集計の結果、各質問による平均肯定率は、学生の授業態度（問1～問4）96.4%、教員による授業内容（問5～問9）96.0%、学習環境（問10～問11）96.0%で、前年度と比較し全質問に対して高く評価されている。学生の授業態度では、授業に対する積極性、課題に対する取り組みが高く評価され、各教員による課題設定等、授業外での学習時間の確保が、授業内容の理解や取り組みへの積極性につながったと考えられる。参考図書の整備状況については、昨年度と比較しやや評価は上がっており、今後も教員および学生への図書リクエストを計画的に実施し、図書の整備を図り、学習の充実へとつなげていきたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%）、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ <100	考察	
1	0.0 (0)	0.0 (0)	3.7 (3)	6.2 (5)	18.5 (15)	24.7 (20)	23.5 (19)	9.9 (8)	7.4 (6)	6.2 (5)	<p>[学生] 問1（シラバスの事前確認）及び、問2（授業への積極的な取り組み）ともに高い肯定的な評価が示された。教員による事前のアナウンスや、資格指定科目が多いことから、学生が積極的に事前の学習準備に取り組む姿勢がうかがえる。問3（授業外での学習）は、全科目において評価が高く、科目担当者の授業進行に応じた課題設定によるものと考えられる。授業外学習の充実は、授業への積極的な取り組みへとつながっており、今後もこのサイクルを図ることで、より高い学習効果へとつなげていきたい。</p>	
	6.2 (5)	11.1 (9)	13.6 (11)	28.4 (23)	21.0 (17)	13.6 (11)	6.2 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
2	0.0 (0)	0.0 (0)	8.6 (7)	8.6 (7)	11.1 (9)	19.8 (16)	13.6 (11)	21.0 (17)	11.1 (9)	6.2 (5)		
	3.7 (3)	11.1 (9)	27.2 (22)	14.8 (12)	14.8 (12)	14.8 (12)	8.6 (7)	4.9 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)		
3	0.0 (0)	0.0 (0)	2.5 (2)	9.9 (8)	12.3 (10)	16.0 (13)	27.2 (22)	16.0 (13)	9.9 (8)	6.2 (5)		
	7.4 (6)	12.3 (10)	17.3 (14)	27.2 (22)	16.0 (13)	12.3 (10)	7.4 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
4	1.2 (1)	7.4 (6)	9.9 (8)	13.6 (11)	13.6 (11)	24.7 (20)	13.6 (11)	6.2 (5)	6.2 (5)	3.7 (3)		
	2.5 (2)	6.2 (5)	12.3 (10)	11.1 (9)	19.8 (16)	18.5 (15)	19.8 (16)	7.4 (6)	2.5 (2)	0.0 (0)		
5	0.0 (0)	0.0 (0)	2.5 (2)	7.4 (6)	8.6 (7)	18.5 (15)	21.0 (17)	19.8 (16)	14.8 (12)	7.4 (6)		<p>[授業[内容]] 他分野の学部共通科目や社会調査等の科目について、問3（授業外での学習）は高い肯定的な評価が示されたが、問6（授業内容の理解）では低い評価となっている。自由記述からその要因として授業内容の難易度が影響したと考えられる。事前課題を提示していくうえで、学生自身が課題意識を持って授業に取り組めるように課題の出し方等に工夫が求められる。</p>
	11.1 (9)	14.8 (12)	19.8 (16)	22.2 (18)	14.8 (12)	13.6 (11)	2.5 (2)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
6	0.0 (0)	1.2 (1)	7.4 (6)	12.3 (10)	9.9 (8)	17.3 (14)	12.3 (10)	22.2 (18)	9.9 (8)	7.4 (6)		
	6.2 (5)	14.8 (12)	23.5 (19)	11.1 (9)	17.3 (14)	17.3 (14)	8.6 (7)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
7	0.0 (0)	0.0 (0)	4.9 (4)	6.2 (5)	11.1 (9)	13.6 (11)	21.0 (17)	12.3 (10)	13.6 (11)	17.3 (14)		
	18.5 (15)	16.0 (13)	18.5 (15)	17.3 (14)	16.0 (13)	9.9 (8)	3.7 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
8	0.0 (0)	0.0 (0)	4.9 (4)	4.9 (4)	8.6 (7)	12.3 (10)	17.3 (14)	16.0 (13)	17.3 (14)	18.5 (15)		
	19.8 (16)	16.0 (13)	25.9 (21)	13.6 (11)	16.0 (13)	6.2 (5)	1.2 (1)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
9	0.0 (0)	0.0 (0)	4.9 (4)	6.2 (5)	8.6 (7)	21.0 (17)	13.6 (11)	16.0 (13)	13.6 (11)	16.0 (13)		
	17.3 (14)	14.8 (12)	22.2 (18)	11.1 (9)	24.7 (20)	6.2 (5)	2.5 (2)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	2.5 (2)	2.5 (2)	21.0 (17)	21.0 (17)	23.5 (19)	16.0 (13)	13.6 (11)		
	17.3 (14)	18.5 (15)	23.5 (19)	19.8 (16)	18.5 (15)	1.2 (1)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
11	1.2 (1)	2.5 (2)	4.9 (4)	9.9 (8)	14.8 (12)	22.2 (18)	24.7 (20)	8.6 (7)	6.2 (5)	4.9 (4)		
	4.9 (4)	7.4 (6)	19.8 (16)	19.8 (16)	24.7 (20)	14.8 (12)	4.9 (4)	2.5 (2)	1.2 (1)	0.0 (0)		
											<p>[授業[教え方等]] 問7（説明の明快性）、問8（よく聞き取れたか）、問9（授業の進め方）については、全科目において肯定的な評価が示された。板書やパワーポイントの使用や事例を含めたわかりやすい授業の進め方等、各教員による授業工夫が評価につながったと考えられる。</p>	
											<p>[環境・設備等] 人数に応じた教室の確保により、問10（学習環境）においては肯定的な評価を得ている。人数に応じた教室を確保し、学習環境が改善できたことが成果に結びついている。問11（参考図書の充実）については、学科の資料室をはじめ、図書館の充実に向けて、学科内会議等で図書、資料に関するリクエストを募る等、計画的に実施していく。</p>	

()は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

本学科は社会福祉士、精神保健福祉士、保育士の3資格を養成していく上で、資格専門科目内に講義系、演習系の授業科目をそれぞれ設置している。自由記述の内容を講義系科目と演習系科目とに分けその内容を分析した。講義科目では学習環境(人数、部屋の広さ等)に関する記述が多く、パワーポイントが見えにくい、声の聞き取りにくさ、他の学生の授業内での私語に対して注意がされていないなど、改善に向けての要望が多く書かれていた。演習系科目では、教員の説明の明確さ、話の聞き取りやすさ等、教員によるわかりやすい事例提示等、授業の進め方や教授方法に関する肯定的な記述が多かった。講義系科目に関してはより学生が積極的に授業に取り組めるよう授業内での板書およびパワーポイントの有用な活用等、工夫が求められる。今後非常勤懇談科会等で講義系科目の担当教員間で意見交換し、検討していく。

4.今後の方針

1. 教務部委員によるガイダンスの一層の工夫

今年度から新たなカリキュラム編成となるため、新旧科目の移行を含め、学生が科目構成や体系について十分理解し、科目履修できるよう教務部委員によるガイダンスの一層の工夫と強化を図る。

2. 常勤、非常勤教員間の連携強化

新旧カリキュラムの移行に伴い、学生に不利益が生じないよう、学科教員間での情報の共有化を図り、新たな教育理念に基づき全教員が取り組めるよう、学科内公開授業の開催や非常勤懇談科会を通して教員間の連携を強化していく。また国家試験対策として、各資格科目の授業内容に国家試験の傾向を含めていく等、教員全体で取り組みを強化していく。

1.概評

ソーシャル・スタディーズ、メディア・スタディーズ、グローバル・スタディーズの3つのスタディーズを設けたカリキュラムがスタートして3年が経過した。授業外での学習時間の確保を含め、授業公開をスタディーズごとに後期も実施し、授業後に教員間でディスカッションをし、お互いの授業の関係性や方向性を確認し合っている。授業の質を上げる努力の成果が、少しずつ現れてきている。また、メディアスタディーズのカリキュラムを中心に強化すべく検討を続けている。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的 (A, B) な評価の割合ごとの科目数の割合(%), 学科の状況と課題 (前年度との比較等)。

(上段がA評価、下段がB評価)

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	0.0 (0)	1.7 (2)	6.7 (8)	7.6 (9)	15.1 (18)	28.6 (34)	20.2 (24)	5.9 (7)	12.6 (15)	1.7 (2)	【学生】 シラバスによる事前確認 (no.1)、授業への積極的取り組み (no.2)、授業外での学習 (no.3)、シラバスの「到達目標」の達成 (no.4) については、評価に若干のばらつきはあるものの、概ね3~7割程度の学生が肯定的評価をしている科目数が多い結果となっている。 英語に関しては、授業外での学習をさらに進めるため、e-learningの学習の徹底に向けて非常勤教員を含め話し合いを重ねている。その他の科目についても、課題やレポートなどで授業外の学習時間をしっかりと確保するよう、さらに学科で検討を重ねていく。
	2.5 (3)	10.9 (13)	14.3 (17)	28.6 (34)	23.5 (28)	13.4 (16)	5.9 (7)	0.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	5.0 (6)	14.3 (17)	18.5 (22)	21.0 (25)	18.5 (22)	13.4 (16)	7.6 (9)	1.7 (2)	英語に関しては、授業外での学習をさらに進めるため、e-learningの学習の徹底に向けて非常勤教員を含め話し合いを重ねている。その他の科目についても、課題やレポートなどで授業外の学習時間をしっかりと確保するよう、さらに学科で検討を重ねていく。
	0.8 (1)	8.4 (10)	13.4 (16)	21.0 (25)	21.8 (26)	23.5 (28)	10.1 (12)	0.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.8 (1)	1.7 (2)	6.7 (8)	10.9 (13)	16.0 (19)	27.7 (33)	17.6 (21)	13.4 (16)	5.0 (6)	【授業[内容]】 「授業はシラバスに記載された内容で行われたか」(no.5)については評価に多少のばらつきが見られた。基礎ゼミとして開講している「現代教養入門」は、担当教員間でディスカッションをし、シラバスの内容も充実してきた。卒業論文の成果へつなげるように、スタディーズごとに教員間で連携をとっている。「授業内容の理解」(no.6)については、半数程度の学生が肯定的な評価をした科目数の割合が高い結果となり、no.2の積極的に授業に取り組んだかどうかということと相関関係にあるとも考えられる。授業外での学習時間を増やすことは、授業内容の理解を高めることに繋がるはずである。学生には、授業外での積極的な学習を促していきたい。
	5.0 (6)	15.1 (18)	23.5 (28)	26.9 (32)	16.0 (19)	12.6 (15)	0.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	2.5 (3)	6.7 (8)	13.4 (16)	25.2 (30)	13.4 (16)	19.3 (23)	9.2 (11)	8.4 (10)	0.8 (1)	0.8 (1)	【授業[教え方等]】 教えた等については評価に多少ばらつきが見られる。授業のタイプによっては、PowerPointや映像等の教材の使用の有無や、配付資料の量の差があると思われる、その差が評価に違いを生んでいるとも考えられる。教員の説明の明快さについては、テーマによっては、学生が「明快」と受け止めることができない場合も考えられる。教員が平明な解説をする努力は必要であるが、難しい側面もある。
	0.0 (0)	2.5 (3)	8.4 (10)	10.9 (13)	18.5 (22)	25.2 (30)	21.0 (25)	12.6 (15)	0.8 (1)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.8 (1)	3.4 (4)	6.7 (8)	17.6 (21)	16.0 (19)	21.0 (25)	17.6 (21)	13.4 (16)	3.4 (4)	必修科目はクラスを分割し、少人数対応をしているため、教員の話は良く聞き取っており、内容の理解につながっている。授業外で質問を受ける等の個別対応も肯定的な評価に影響していると考えられる。
	4.2 (5)	12.6 (15)	18.5 (22)	26.9 (32)	16.0 (19)	16.8 (20)	3.4 (4)	1.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	4.2 (5)	5.9 (7)	10.1 (12)	22.7 (27)	16.0 (19)	16.0 (19)	13.4 (16)	8.4 (10)	3.4 (4)	【環境・設備等】 学習環境については、評価に多少ばらつきが見られる。授業内容に即した適切な教室を使用できていない科目に関して評価が影響している。また、参考書の充実度に対する評価は以前に比べ上がっている。これは、図書館と連携して参考書の充実に向けた結果である。さらなる充実を図っていきたい。
	4.2 (5)	8.4 (10)	14.3 (17)	17.6 (21)	30.3 (36)	16.8 (20)	7.6 (9)	0.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.8 (1)	3.4 (4)	6.7 (8)	12.6 (15)	16.0 (19)	16.8 (20)	15.1 (18)	21.0 (25)	7.6 (9)	必修科目はクラスを分割し、少人数対応をしているため、教員の話は良く聞き取っており、内容の理解につながっている。授業外で質問を受ける等の個別対応も肯定的な評価に影響していると考えられる。
	9.2 (11)	21.8 (26)	22.7 (27)	11.8 (14)	21.8 (26)	11.8 (14)	0.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.8 (1)	4.2 (5)	3.4 (4)	5.0 (6)	16.0 (19)	20.2 (24)	18.5 (22)	20.2 (24)	11.8 (14)	必修科目はクラスを分割し、少人数対応をしているため、教員の話は良く聞き取っており、内容の理解につながっている。授業外で質問を受ける等の個別対応も肯定的な評価に影響していると考えられる。
	13.4 (16)	21.0 (25)	22.7 (27)	21.0 (25)	15.1 (18)	5.9 (7)	0.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	0.8 (1)	2.5 (3)	10.1 (12)	12.6 (15)	19.3 (23)	13.4 (16)	16.0 (19)	17.6 (21)	7.6 (9)	【環境・設備等】 学習環境については、評価に多少ばらつきが見られる。授業内容に即した適切な教室を使用できていない科目に関して評価が影響している。また、参考書の充実度に対する評価は以前に比べ上がっている。これは、図書館と連携して参考書の充実に向けた結果である。さらなる充実を図っていきたい。
	8.4 (10)	22.7 (27)	13.4 (16)	22.7 (27)	16.8 (20)	14.3 (17)	1.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.8 (1)	6.7 (8)	5.9 (7)	13.4 (16)	24.4 (29)	12.6 (15)	24.4 (29)	11.8 (14)	【環境・設備等】 学習環境については、評価に多少ばらつきが見られる。授業内容に即した適切な教室を使用できていない科目に関して評価が影響している。また、参考書の充実度に対する評価は以前に比べ上がっている。これは、図書館と連携して参考書の充実に向けた結果である。さらなる充実を図っていきたい。
	13.4 (16)	23.5 (28)	17.6 (21)	29.4 (35)	15.1 (18)	0.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.8 (1)	2.5 (3)	11.8 (14)	20.2 (24)	21.8 (26)	19.3 (23)	14.3 (17)	8.4 (10)	0.8 (1)	【環境・設備等】 学習環境については、評価に多少ばらつきが見られる。授業内容に即した適切な教室を使用できていない科目に関して評価が影響している。また、参考書の充実度に対する評価は以前に比べ上がっている。これは、図書館と連携して参考書の充実に向けた結果である。さらなる充実を図っていきたい。
	0.0 (0)	13.4 (16)	18.5 (22)	23.5 (28)	23.5 (28)	17.6 (21)	2.5 (3)	0.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

現代教養学科では、参加型の授業を強化するための授業方法を教員間で検討しているが、それに対応した教室が不足している。この点が学生の学習環境の評価のばらつきに表れていると考える。また、学生自身が授業にどれだけ興味を持って積極的に取り組めるか、ということが一つの授業の評価にも繋がっていくと思われる。受け身ではなく、自主的な授業参加を促すような授業運営について、学科でも話し合っていきたい。

4.今後の方針

現代教養学科では、授業の改善・充実のための一つの方法として、スタディーズごとに授業公開を行い、授業後にディスカッションをすることで、教員間での授業の関係性や方向性の確認に努めている。今後もできるだけ授業公開に参加し合うことで連携を図り、情報交換に努め、よりよい授業の方法を模索して行きたい。また、非常勤教員とも引き続き連携を密に図っていききたい。図書館の協力を仰ぎ、これまで少なかった社会科学分野の図書の充実をお願いしている。今後も引き続き進めて行きたい。

1.概評

すべての項目において、9割以上が肯定的評価である。今年度、定員を大幅に超える入学者があったが、目立った影響は見られず、高い評価を維持している。各教員に対する評価を見ても目立って否定的評価が高いものはなく、それぞれが授業改善に前向きに取り組んでいる成果ととらえることができる。各教員の改善策も、学生の自由記述内容まで真摯に受け止め、原因を考え、具体的対応が記載されている例が多く、授業改善への意識が高い。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%）、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察	
1	0.0 (0)	0.0 (0)	2.2 (2)	10.1 (9)	19.1 (17)	33.7 (30)	24.7 (22)	4.5 (4)	4.5 (4)	1.1 (1)	<p>[学生] 大学全体評価と比較しても、初教の学生は肯定的評価の内、特にA評価が割合が高く、より積極的に授業に取り組んでいる学生の割合が高い。数年前と比較すると、シラバスに対する意識も高くなってきており、到達目標を意識した積極的な授業への取り組みが増えている。</p>	
	1.1 (1)	4.5 (4)	14.6 (13)	33.7 (30)	28.1 (25)	13.5 (12)	4.5 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
2	0.0 (0)	0.0 (0)	2.2 (2)	7.9 (7)	13.5 (12)	21.3 (19)	24.7 (22)	12.4 (11)	13.5 (12)	4.5 (4)		
	4.5 (4)	12.4 (11)	15.7 (14)	28.1 (25)	19.1 (17)	16.9 (15)	3.4 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
3	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.4 (3)	21.3 (19)	13.5 (12)	24.7 (22)	18.0 (16)	14.6 (13)	4.5 (4)		
	5.6 (5)	11.2 (10)	24.7 (22)	27.0 (24)	22.5 (20)	9.0 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
4	1.1 (1)	2.2 (2)	5.6 (5)	18.0 (16)	23.6 (21)	28.1 (25)	11.2 (10)	4.5 (4)	5.6 (5)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	4.5 (4)	5.6 (5)	20.2 (18)	29.2 (26)	24.7 (22)	11.2 (10)	4.5 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)		
5	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (1)	11.2 (10)	10.1 (9)	23.6 (21)	24.7 (22)	13.5 (12)	13.5 (12)	2.2 (2)		<p>[授業[内容]] シラバスと授業内容の整合性については、大学全体でも、初等教育学科でも97%が肯定的である。授業内容が理解できたかについては、初等教育学科のA評価が大学全体に比べて高く、例年平均値の高さに表れていた部分が維持されている。</p>
	5.6 (5)	11.2 (10)	16.9 (15)	24.7 (22)	25.8 (23)	11.2 (10)	3.4 (3)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
6	0.0 (0)	1.1 (1)	0.0 (0)	13.5 (12)	15.7 (14)	19.1 (17)	19.1 (17)	14.6 (13)	12.4 (11)	4.5 (4)		
	4.5 (4)	13.5 (12)	18.0 (16)	22.5 (20)	22.5 (20)	16.9 (15)	2.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
7	0.0 (0)	1.1 (1)	1.1 (1)	12.4 (11)	12.4 (11)	11.2 (10)	18.0 (16)	19.1 (17)	14.6 (13)	10.1 (9)		
	11.2 (10)	15.7 (14)	24.7 (22)	11.2 (10)	25.8 (23)	9.0 (8)	2.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
8	0.0 (0)	0.0 (0)	3.4 (3)	3.4 (3)	13.5 (12)	12.4 (11)	21.3 (19)	20.2 (18)	15.7 (14)	10.1 (9)		
	10.1 (9)	16.9 (15)	28.1 (25)	20.2 (18)	18.0 (16)	4.5 (4)	2.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
9	0.0 (0)	0.0 (0)	2.2 (2)	9.0 (8)	14.6 (13)	16.9 (15)	18.0 (16)	14.6 (13)	14.6 (13)	10.1 (9)		
	10.1 (9)	16.9 (15)	19.1 (17)	20.2 (18)	24.7 (22)	7.9 (7)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.4 (3)	5.6 (5)	18.0 (16)	33.7 (30)	18.0 (16)	13.5 (12)	7.9 (7)	<p>[環境・設備等] 学習環境については、教科間に評価のばらつきがあり、必修科目で、狭い教室に定員いっぱい状態で着席せざるを得ない教室については、低い評価にならざるを得ない。</p>	
	10.1 (9)	14.6 (13)	20.2 (18)	40.4 (36)	11.2 (10)	3.4 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
11	0.0 (0)	1.1 (1)	2.2 (2)	7.9 (7)	12.4 (11)	32.6 (29)	28.1 (25)	9.0 (8)	5.6 (5)	1.1 (1)		
	2.2 (2)	11.2 (10)	19.1 (17)	25.8 (23)	23.6 (21)	14.6 (13)	1.1 (1)	2.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)		

()は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

教員養成学科という特性もあり、教員の授業改善に対する意欲は高く、全体的に高い評価を維持できている。昨年度は、定員を大幅に超える入学生があり、学習環境への不安があったが、ひとまず、例年並みの評価を得ている。

4.今後の方針

学科所属教員の移動や退職に伴い、今年度より授業担当者が大幅に入れ替わる。学科カリキュラムの変更もあり、より学生の主体的、積極的な学習を進められるような指導を共通課題として学科全体で取り組む姿勢が重要である。前年度から開始した、新たな授業公開について、今年度は、参観後の協議の時間もとることができた。今後もこの取り組みを続け、学科全体で授業の質的改善に取り組みたい。

1.概評

本年度より導入されたフォーマットの為、旧来の同時期データとの比較が行えないことは前期と同様である。また結果に対する傾向に関して概ね例年通りと推測され、授業に関する紹介や導入の部分においては比較的良好な結果となっているものの、授業運営や達成度、習熟状況に関しては科目間にばらつきがあり、学科全体としても大学全体と比較して平均評価率を下回る結果となっている。このため授業理解度を引き上げるための努力を今後も継続的に行っていくことが必要である。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的 (A, B) な評価の割合ごとの科目数の割合(%), 学科の状況と課題 (前年度との比較等)。

(上段がA評価、下段がB評価)

no	0 ≤ <10	10 ≤ <20	20 ≤ <30	30 ≤ <40	40 ≤ <50	50 ≤ <60	60 ≤ <70	70 ≤ <80	80 ≤ <90	90 ≤ <100	考察	
1	0.0 (0)	1.4 (2)	0.0 (0)	5.0 (7)	18.6 (26)	36.4 (51)	21.4 (30)	7.1 (10)	5.7 (8)	4.3 (6)	<p>[学生] A+Bの評価率(%)は、学科評価/全体評価において設問1(94.5/92.6)、設問2(96.0/95.9)、設問3(95.8/94.4)、設問4(93.3/93.4)と概ね同率もしくは全体評価を上回る結果となっている。また前期A+Bの評価率(%)との比較に関しても、後期評価/前期評価において設問1(94.5/93.8)、設問2(96.0/95.2)、設問3(95.8/94.4)、設問4(93.3/92.0)と僅かではあるが前期の結果を上回る結果となっている。これより前期に引き続き学期初めのガイダンスや、授業内・外での学習指導は、比較的うまく機能していると考えられ、この状況は継続していきたい。</p>	
	4.3 (6)	8.6 (12)	10.7 (15)	30.7 (43)	32.9 (46)	10.0 (14)	2.1 (3)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
2	0.0 (0)	0.7 (1)	4.3 (6)	10.7 (15)	20.7 (29)	18.6 (26)	16.4 (23)	13.6 (19)	9.3 (13)	5.7 (8)		
	4.3 (6)	10.7 (15)	15.0 (21)	20.0 (28)	18.6 (26)	24.3 (34)	6.4 (9)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
3	0.0 (0)	0.0 (0)	0.7 (1)	5.0 (7)	15.0 (21)	29.3 (41)	15.0 (21)	20.0 (28)	9.3 (13)	5.7 (8)		
	4.3 (6)	12.1 (17)	20.7 (29)	22.9 (32)	27.9 (39)	12.1 (17)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
4	0.7 (1)	2.9 (4)	10.7 (15)	27.9 (39)	16.4 (23)	24.3 (34)	7.9 (11)	5.7 (8)	2.9 (4)	0.7 (1)		
	0.7 (1)	0.7 (1)	10.0 (14)	10.7 (15)	26.4 (37)	32.1 (45)	16.4 (23)	2.9 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)		
5	0.0 (0)	1.4 (2)	2.1 (3)	7.1 (10)	13.6 (19)	25.0 (35)	24.3 (34)	15.0 (21)	6.4 (9)	5.0 (7)		<p>[授業[内容]] A+Bの評価率(%)は、学科評価/全体評価において設問5(96.6/96.7)、設問6(92.8/94.1)と若干全体評価を下回る結果となっている。また前期A+Bの評価率(%)との比較に関しても、後期評価/前期評価において設問5(96.6/96.9)、設問6(92.8/92.9)と僅かに下回る結果となった。これより授業内容の明確化、伝達方法に更なる工夫が必要と考える。</p>
	2.9 (4)	10.7 (15)	14.3 (20)	26.4 (37)	27.1 (38)	14.3 (20)	3.6 (5)	0.0 (0)	0.7 (1)	0.0 (0)		
6	1.4 (2)	2.9 (4)	5.7 (8)	13.6 (19)	21.4 (30)	15.7 (22)	17.9 (25)	10.7 (15)	5.7 (8)	5.0 (7)		
	2.9 (4)	8.6 (12)	14.3 (20)	23.6 (33)	23.6 (33)	22.1 (31)	2.9 (4)	2.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)		
7	0.7 (1)	5.0 (7)	5.7 (8)	6.4 (9)	12.1 (17)	23.6 (33)	14.3 (20)	15.0 (21)	10.7 (15)	6.4 (9)		
	5.7 (8)	12.9 (18)	18.6 (26)	22.9 (32)	25.0 (35)	12.1 (17)	2.1 (3)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		
8	1.4 (2)	2.1 (3)	7.9 (11)	5.0 (7)	6.4 (9)	20.7 (29)	17.9 (25)	17.9 (25)	12.9 (18)	7.9 (11)		
	5.7 (8)	15.0 (21)	22.1 (31)	24.3 (34)	18.6 (26)	9.3 (13)	3.6 (5)	1.4 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)		
9	0.7 (1)	5.7 (8)	6.4 (9)	7.1 (10)	9.3 (13)	24.3 (34)	16.4 (23)	16.4 (23)	8.6 (12)	5.0 (7)		
	2.1 (3)	11.4 (16)	20.0 (28)	21.4 (30)	29.3 (41)	12.1 (17)	3.6 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
10	0.0 (0)	0.0 (0)	2.1 (3)	7.1 (10)	8.6 (12)	20.7 (29)	22.9 (32)	21.4 (30)	13.6 (19)	3.6 (5)	<p>[環境・設備等] A+Bの評価率(%)は学科評価/全体評価において設問10(93.8/94.9)、設問11(87.0/90.2)と若干全体評価を下回る結果となっている。また前期A+Bの評価率(%)との比較に関しては、後期評価/前期評価において設問10(93.8/93.9)、設問11(87.0/86.9)と概ね同値となっている。この結果は例年通りであり、学習環境(特に部屋の広さや空調)に関し引き続き改善を望む声が確認されている。</p>	
	6.4 (9)	13.6 (19)	27.1 (38)	27.9 (39)	18.6 (26)	6.4 (9)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
11	0.0 (0)	5.0 (7)	10.7 (15)	22.9 (32)	16.4 (23)	25.7 (36)	10.7 (15)	4.3 (6)	2.9 (4)	1.4 (2)		
	1.4 (2)	7.1 (10)	10.7 (15)	26.4 (37)	27.9 (39)	17.9 (25)	7.9 (11)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)		

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

後期になり、前期に比べ学習内容の専門化が深化し、学科の特色である演習科目においても求められる内容がより具体的となってくる。そうした中で、学生の学習時間の確保や、講義内容の理解度において、個々人におけるバラつきが顕在化し、それらが若干ではあるが数字として表れてきているものと考える。

4.今後の方針

学科カリキュラムの中心である演習科目と、それらを補足し、より発展させるために必要な講義科目の学習バランスに関して、偏りが生じないようにクラスアドバイザー等による履修指導を徹底したい。また授業時間外での自宅学習の有用性について説明し、講義科目の習熟度を向上させる取り組みを徹底したい。

1.概評

全体的に高い得点を維持している。国家試験合格という目的意識を持つ学生の高い学習意欲や積極的に取り組んでいる姿勢が窺える。昨年度は5年に一度の「日本人の食事摂取基準」の改定年だったが、本年度は食品成分表改定など、常に最新の情報が要求されるので、図書や雑誌等も新規あるいは順次更新されたものを設置し、ITから得られる情報と身近に手に取って見られる情報の両方の環境を充実させることは重要と考える。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察	
1	3.1 (2)	21.9 (14)	15.6 (10)	20.3 (13)	21.9 (14)	15.6 (10)	1.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	<p>[学生] 管理栄養学科で開設されている科目の多くは国家試験の資格取得のための必修科目であり、選択必修が多い。そのため、シラバスをあまり確認せずに受講している傾向があるが、受講態度や、レポート作成に関しては、いずれも前学期同様高い数値を示した。授業への出席状況は極めて良く、授業外での学習にも、タイトなカリキュラム構成を考慮すると、十分取り組んでいると評価できる。</p> <p>学生にとってシラバスによって授業計画を確認することは、さらに積極的に授業に取り組む姿勢を持つと考えられるので、シラバスを確認するよう指導する。</p>	
	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	12.5 (8)	26.6 (17)	25.0 (16)	7.8 (5)	15.6 (10)	12.5 (8)	0.0 (0)		
2	0.0 (0)	10.9 (7)	17.2 (11)	9.4 (6)	15.6 (10)	21.9 (14)	12.5 (8)	6.3 (4)	4.7 (3)	1.6 (1)		
	1.6 (1)	3.1 (2)	6.3 (4)	20.3 (13)	15.6 (10)	15.6 (10)	15.6 (10)	17.2 (11)	4.7 (3)	0.0 (0)		
3	3.1 (2)	10.9 (7)	12.5 (8)	9.4 (6)	15.6 (10)	15.6 (10)	9.4 (6)	15.6 (10)	6.3 (4)	1.6 (1)		
	0.0 (0)	10.9 (7)	10.9 (7)	14.1 (9)	15.6 (10)	20.3 (13)	7.8 (5)	12.5 (8)	7.8 (5)	0.0 (0)		
4	12.5 (8)	20.3 (13)	14.1 (9)	25.0 (16)	12.5 (8)	12.5 (8)	1.6 (1)	0.0 (0)	1.6 (1)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	1.6 (1)	0.0 (0)	4.7 (3)	15.6 (10)	23.4 (15)	20.3 (13)	10.9 (7)	20.3 (13)	3.1 (2)		
5	1.6 (1)	7.8 (5)	20.3 (13)	14.1 (9)	21.9 (14)	20.3 (13)	9.4 (6)	1.6 (1)	3.1 (2)	0.0 (0)		<p>[授業[内容]] 授業の内容については、理解度が高いと思われる数値である。授業内容の理解度は高まっていると考えられる。今後も、シラバスの確認、授業の事前準備をするように、学生に指導してゆく。</p>
	0.0 (0)	1.6 (1)	3.1 (2)	12.5 (8)	23.4 (15)	20.3 (13)	14.1 (9)	18.8 (12)	6.3 (4)	0.0 (0)		
6	3.1 (2)	15.6 (10)	12.5 (8)	18.8 (12)	20.3 (13)	15.6 (10)	10.9 (7)	1.6 (1)	0.0 (0)	1.6 (1)		
	1.6 (1)	0.0 (0)	1.6 (1)	12.5 (8)	20.3 (13)	25.0 (16)	17.2 (11)	17.2 (11)	4.7 (3)	0.0 (0)		
7	1.6 (1)	7.8 (5)	12.5 (8)	12.5 (8)	20.3 (13)	15.6 (10)	14.1 (9)	14.1 (9)	0.0 (0)	1.6 (1)		
	1.6 (1)	0.0 (0)	12.5 (8)	18.8 (12)	17.2 (11)	21.9 (14)	18.8 (12)	6.3 (4)	3.1 (2)	0.0 (0)		
8	1.6 (1)	6.3 (4)	9.4 (6)	15.6 (10)	15.6 (10)	10.9 (7)	23.4 (15)	14.1 (9)	1.6 (1)	1.6 (1)		
	1.6 (1)	3.1 (2)	14.1 (9)	20.3 (13)	17.2 (11)	18.8 (12)	14.1 (9)	7.8 (5)	3.1 (2)	0.0 (0)		
9	4.7 (3)	4.7 (3)	14.1 (9)	17.2 (11)	23.4 (15)	14.1 (9)	10.9 (7)	7.8 (5)	3.1 (2)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	3.1 (2)	7.8 (5)	17.2 (11)	17.2 (11)	23.4 (15)	20.3 (13)	9.4 (6)	1.6 (1)	0.0 (0)		
10	0.0 (0)	1.6 (1)	14.1 (9)	15.6 (10)	15.6 (10)	25.0 (16)	15.6 (10)	7.8 (5)	4.7 (3)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	3.1 (2)	15.6 (10)	25.0 (16)	18.8 (12)	15.6 (10)	12.5 (8)	9.4 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)		
11	1.6 (1)	10.9 (7)	21.9 (14)	12.5 (8)	35.9 (23)	9.4 (6)	7.8 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)		
	0.0 (0)	1.6 (1)	1.6 (1)	9.4 (6)	28.1 (18)	29.7 (19)	14.1 (9)	14.1 (9)	0.0 (0)	1.6 (1)		

()は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

管理栄養士に必要な基礎知識である化学や生物学の学力向上のために、現在行っている入学前教育(化学)を今後も継続し、基礎学力向上を目指した取り組みを行ってゆく。また、管理栄養士の主な活躍の場である病院では、チーム医療が行われており、コミュニケーション力や専門用語として医学英語のスキルが必要とされることが多い。又国際的な保健・食糧機関で活躍できる管理栄養士養成には高い英語力が必要とされる。昨年度前期から、専門科目として「科学英語(食品と栄養学を学ぶために)」を2年次に開講し、専門英語の教育を開始した。学生の関心度は高かったが、専門分野を英語で学ぶという初めての経験は、2年生には少し難しいという感想も聞かれた。初年度であるので、もう少し経過を見て、内容を検討して行く予定である。また4年次には、国家試験対策として、e-ラーニングを導入し、積極的に学生自身がアクセスする環境を設定している。学生の関心は高く、少しずつ参加率も上がり効果が高かったと考え、本年度も継続しまた強化していく。

4.今後の方針

管理栄養学科は、学生のほとんどは管理栄養士国家試験合格を目指しており、学生の学習目的は明確で勉学意欲は極めて高いと結果からも推察される。そこで管理栄養士養成を主たる教育目標の一つとして捉え、資格取得に関わるカリキュラムの一層の充実をはかるために本年平成28年度より新カリキュラムを導入した。低学年に基礎知識の学習をはじめ、段階を踏んで、高学年に応用、更には現場に即した実験、実習へと発展的なカリキュラム編成を設定した。また学生の要求を満足すべく、4年次には、国家試験対策の演習授業を必修科目として設け、より効果的な教育を推し進めてゆきたいと考えている。

1.概評

現在、3～4年生は学科開設当時のカリキュラム、1～2年生は専門の基礎科目がすべて必修化された新カリキュラムの授業になっている。今後数年間のFDアンケートの結果は、その試みの成果を評価する重要な資料となるものと考えられる。質問項目及び回答方法の変更によって、前年度との比較は難しいが、全体的には例年と同様の結果と言える。すなわち、資格関連の専門科目が多いため、一部の講義科目ではその内容がやや難解なためか、やや評価が低い科目があり、一方で演習・実習科目は内容が充実しており総じて評価が高い、というものである。この現状に甘んじることなく、学生の学習意欲向上を目指した取り組みをしていきたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的(A, B)な評価の割合ごとの科目数の割合(%), 学科の状況と課題(前年度との比較等)。

(上段がA評価、下段がB評価)

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ <100	考察
1	0.0 (0)	1.6 (1)	16.1 (10)	11.3 (7)	17.7 (11)	21.0 (13)	14.5 (9)	12.9 (8)	3.2 (2)	1.6 (1)	<p>[学生] 学生に関する4項目は、前期と比較するとすべてA+B評価の割合が上昇し、いずれも学科平均は全体平均以上であった。学科として各授業の1回目でシラバス確認の徹底や、学生の授業中の積極的な取り組み、授業外での学習の働きかけなどの効果が少しずつできてきているのかもしれない。「到達目標」の達成の評価では学内平均より高く、資格取得という明確な目標のある学習に一定の達成感があるものと考えられる。</p>
	0.0 (0)	6.5 (4)	14.5 (9)	16.1 (10)	24.2 (15)	17.7 (11)	16.1 (10)	4.8 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	1.6 (1)	1.6 (1)	14.5 (9)	9.7 (6)	14.5 (9)	17.7 (11)	12.9 (8)	16.1 (10)	6.5 (4)	4.8 (3)	
	4.8 (3)	4.8 (3)	19.4 (12)	12.9 (8)	16.1 (10)	22.6 (14)	14.5 (9)	1.6 (1)	3.2 (2)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	4.8 (3)	4.8 (3)	16.1 (10)	11.3 (7)	11.3 (7)	16.1 (10)	9.7 (6)	22.6 (14)	3.2 (2)	
	4.8 (3)	21.0 (13)	12.9 (8)	19.4 (12)	12.9 (8)	19.4 (12)	6.5 (4)	3.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	1.6 (1)	8.1 (5)	12.9 (8)	17.7 (11)	16.1 (10)	17.7 (11)	12.9 (8)	6.5 (4)	6.5 (4)	0.0 (0)	
	1.6 (1)	4.8 (3)	4.8 (3)	16.1 (10)	17.7 (11)	24.2 (15)	19.4 (12)	8.1 (5)	3.2 (2)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	1.6 (1)	6.5 (4)	8.1 (5)	19.4 (12)	16.1 (10)	17.7 (11)	16.1 (10)	9.7 (6)	4.8 (3)	
	3.2 (2)	11.3 (7)	14.5 (9)	21.0 (13)	16.1 (10)	24.2 (15)	8.1 (5)	1.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	3.2 (2)	3.2 (2)	11.3 (7)	17.7 (11)	9.7 (6)	19.4 (12)	8.1 (5)	16.1 (10)	6.5 (4)	4.8 (3)	
	3.2 (2)	8.1 (5)	16.1 (10)	17.7 (11)	11.3 (7)	21.0 (13)	17.7 (11)	3.2 (2)	1.6 (1)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	9.7 (6)	4.8 (3)	17.7 (11)	8.1 (5)	16.1 (10)	12.9 (8)	6.5 (4)	12.9 (8)	11.3 (7)	
	12.9 (8)	12.9 (8)	8.1 (5)	16.1 (10)	16.1 (10)	25.8 (16)	4.8 (3)	3.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	1.6 (1)	3.2 (2)	9.7 (6)	11.3 (7)	12.9 (8)	12.9 (8)	14.5 (9)	8.1 (5)	11.3 (7)	14.5 (9)	
	14.5 (9)	11.3 (7)	8.1 (5)	22.6 (14)	19.4 (12)	16.1 (10)	8.1 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	1.6 (1)	8.1 (5)	6.5 (4)	12.9 (8)	9.7 (6)	24.2 (15)	8.1 (5)	6.5 (4)	11.3 (7)	11.3 (7)	
	9.7 (6)	14.5 (9)	6.5 (4)	16.1 (10)	21.0 (13)	24.2 (15)	4.8 (3)	3.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	3.2 (2)	6.5 (4)	19.4 (12)	11.3 (7)	24.2 (15)	12.9 (8)	14.5 (9)	8.1 (5)	
	9.7 (6)	14.5 (9)	16.1 (10)	25.8 (16)	9.7 (6)	17.7 (11)	3.2 (2)	3.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	1.6 (1)	6.5 (4)	9.7 (6)	19.4 (12)	32.3 (20)	16.1 (10)	4.8 (3)	9.7 (6)	0.0 (0)	
	1.6 (1)	8.1 (5)	16.1 (10)	11.3 (7)	27.4 (17)	21.0 (13)	11.3 (7)	3.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	

()は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

学生の取り組みと学習環境に関する項目で学内平均を上回っている一方で、授業の教え方の項目が学内平均を下回っていた。これは前期のFDアンケート結果と同じ傾向である。学科の授業の特性として、理系の知識を必要とし、それをベースにした実験・実習を行うため、授業の内容には当然難解な部分もあるが、資格取得のため努力して取り組んでいる、という学生の状況を反映していると考えられる。こうした問題点への対応として1～2年生の新カリキュラムでは基礎科目の必修化と新たな科目設定を行った。その効果を今後数年検証し、さらなる改善の取り組みをすすめる必要があるであろう。

4.今後の方針

学科の開設している科目の特性を踏まえた上で、授業への能動的・積極的な参加と学習意欲のさらなる向上を図ることが必要になるであろう。具体的には、専門の基礎科目を必修化した新カリキュラムを履修している1～2年生の今後の状況の確認、それに基づく基礎科目の指導体制のさらなる充実、実習・演習の多い応用的な専門科目の内容の工夫とそれらに必要な機器設備の充実、それらを円滑に行うための学科内での情報交換、などに取り組んでいきたい。また学科として、とくに入学時に理系科目の基礎学力が不足している学生が、授業に積極的に参加し学習意欲を向上させるために必要な取り組みをしていく必要があるかもしれない。